

さいたま市長年頭記者会見

令和7年1月7日（火曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 それでは、時間になりましたので、年頭に当たっての記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社、毎日新聞さん、進行をよろしくお願いいたします。

○ 毎日新聞 1月の幹事社を務めます毎日新聞と申します。よろしくお願ひいたします。

 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。それでは、市長から年頭挨拶よろしくお願ひいたします。

市長年頭あいさつ

○ 市 長 新年、明けましておめでとうございます。

 この年末年始は日の並びがよく、9連休という方も多かったことと思います。好天にも恵まれましたので、皆様、健やかな、穏やかな新年をお迎えのことと思います。

 さて、私の新年のスタートですが、市の無形民俗文化財に指定され、江戸時代から続く「日進餅つき踊り」が行われる中、カウントダウンとともに新年を迎えました。保存会の皆様や地域の皆様とお話させていただきましたが、このような地域の伝統が皆様の手で次世代へ受け継がれていることにとっても明るい希望を感じ、私にとってすばらしいスタートとなりました。

 令和7年、さいたま市も新たな年がスタートしました。本年も市民一人ひとりの声に耳を傾けながら、皆様とともに「住みたいまち、住み続けたまち」を実現してまいります。

 皆様には本年も引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとって健康で幸多き1年になりますよう心から祈念申し上げまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

幹事社質問：①今年の抱負について②5月の市長選についての考え

○ 毎日新聞

ありがとうございます。

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。2点ございます。まず1点目、今年の抱負について教えてください。

そして、もう一つ、5月の市長選挙についてのお考え、よろしく願います。

○ 市長

まず、新年の抱負から申し上げます。昨年本市は人口135万人を突破し、0歳から14歳までの子どもの転入超過数は9年連続で全国第1位となるなど、大都市として成長・発展を続けています。

最新の市民意識調査では、「住みやすい」、「住み続けたい」という方の割合がともに85%を超え、特に「住み続けたい」市民の割合が87.2%と過去最高となりました。「住みたい街」「幸福度」「SDGs」などの民間によるランキング調査でも上位に定着し、高い評価が続いていることをうれしく思います。

本市が住むことを誇りに思える都市として、また政令指定都市として、今日の発展に至りましたのも、ひとえに市民の皆様の市政へのご理解とご協力の賜物にほかなりません。ともに歩み、汗をかき、地域社会の発展に日々ご尽力いただいていることに改めて感謝を申し上げます。

こうした成果に甘んじることなく、2025年も引き続き、21世紀半ばを見据えた「さいたま市の新時代」という次なるステージに向けて、本市をさらにシンカさせていかなければなりません。そのためには、まず本市の魅力や強みをさらに伸ばしていく必要があります。

本年は、本市の魅力の一つである大宮盆栽村が開村100周年を迎えます。1年を通して100周年を記念する事業を予定しており、盆栽の魅力を広く発信してまいります。次の100年を見据え、大宮盆栽組合、盆栽園、地域の方たちはもちろんのこと、これからを担う若手盆栽師とも協働して大宮盆栽村の発展に向けて取り組んでまいりたいと思います。ぜひ皆様には、世界に誇る名品盆栽の聖地である盆栽村で、四季とともに移ろう盆栽の魅力を感じていただきたいと思います。

盆栽と同様に、直近の大きなイベントとしては、3月16日にフルマラソンを含むマラソン大会「さいたまマラソン2025」を開催します。沿道で観戦できるほか、ボランティアとして市民や企業、団体の皆様から大会運営にご協力いただけるなど、ランナーにとっての「する」、「まなぶ」だけではなく、「みる」、「ささえる」形でもご参加いただける大変重要なスポーツイベントとなっています。

また、さいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナでは、どなたでも参加でき、様々なスポーツや食事を楽しむことができる「さいたまマラソンフェスティバル2025」を同時開催します。当日はぜひ多くの方にご参加いただき、お楽しみいただければと思います。

一方、気候変動に伴う災害の激甚化はますます深刻さを増しています。昨年の本市の猛暑日についても過去最高日数を記録するなど、まさに人類にとっても危機的な状況だと認識しています。これを踏まえ、本市では公共施設への太陽光発電設備や蓄電池の導入、ZEBやLED化を推進するとともに「脱炭素先行地域事業」として掲げているごみ発電を利用した地産地消など、引き続き全国を牽引する先駆的な取組を進めてまいります。

昨年は、COP29に参加し、本市として「E-KIZUNA High-Level Talks」を開催しました。私からは、ご出席をいただいたG7政府関係者や自治体関係者の皆様に向けて、ゼロカーボンシティ実現に向けた本市の取組を発信するとともに、気候変動における自治体の役割や連携の重要性について共有をしたところです。本年も引き続き、ゼロカーボンシティの実現に向けて、市民、事業者等と連携して地球温暖化対策に取り組んでまいります。

本年は、新庁舎整備がいよいよ本格化してまいります。本年10月頃には、基本性能やデザイン、配置計画などを含む基本設計の概要をお示ししパブリック・コメントを通して市民の皆様からのご意見を募集する予定です。新庁舎が本市のシンボルとなり、末永く市民の皆様にも愛される庁舎となるよう2031年度の移転、供用開始を目指して取り組んでまいります。

さらに、本年1月末には西区役所において「書かない窓口」もいよいよスタートします。DXを通じて、市民サービスの向上を図るとともに、私たちの業務の効率化を進めてまいります。また、本市のさらなるシンカの

ためには、誰一人取り残さず、持続可能な地域社会を創造していく必要があります。

本市の出生数や合計特殊出生率は減少傾向にあるため、少子化対策は喫緊の課題です。これからのさいたま市にとって、子ども・子育て関連施策をどのように進めていくのかということは、大変重要なテーマであり、それはまさにさいたま市の未来につながっていくことから、これから結婚や出産を迎える世代や子育て中の世代が「安心して子どもを生み育てられる」「子育てが楽しい」と思えるようなまちづくりを推進するため、結婚・妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の整備を進めてまいります。

また、様々な家庭環境がある中で、子ども、若者が生まれ育った環境等に左右されず、個性が尊重され、健やかに育ち、社会の担い手の1人となるように、家庭の特性やニーズに応じたきめ細かい支援や合理的配慮を行う形で、誰一人取り残さないための取組を充実させてまいります。

近年の地域課題は、複雑、多様化してきています。本市では制度のほざまにある課題を抱える方に寄り添い、支援する体制の充実を図り、誰一人取り残さない地域共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

認知症当事者や認知症サポーターなどによる「チームオレンジ」の取組を昨年オープンした認知症フレンドリーまちづくりセンターを中心に推進し、多くの高齢者の皆様に社会の一員としてご活躍し続けていただくための取組を進めてまいります。

また、本年4月には市民相互のふれあいや地域・世代間の交流を促進するための健康福祉センター東楽園がオープンします。先日、市民の皆様から愛称を募集して、「ゆーぱる ひざこ」と決定しました。本年もこうした様々な事業を通して「共生のまちづくり」をより一層推進してまいります。

最後になりますが、本年は巳年です。蛇の脱皮のように本市もたくましく強く成長できるシンカし続ける一年にしたいと思います。一昨年公表された人口推計によると、当初2030年頃とされていた本市の人口のピークを2035年頃へと5年先送りすることができました。しかし、子ども・子育て、高齢者福祉、物価高対策など多様な行政課題に対して、誰一人取り残さないためにきめ細かな対応が求められます。本市としては、総合振

興計画で掲げた本市の将来都市像「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」を実現し、誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市となるように取組を着実に進めていきたいと考えています。そのためには、皆様のご協力が不可欠です。どうか本年も皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2つ目、5月の市長選についてですが、私の進退については、先日もお話をいただきましたが、市長の任期としては4年間という期間をいただいています。まだあと5か月ありますので、進退に関する事については自分自身でもまだ考えていません。自ら進退表明する際には、今までのこの4年間の取組について皆様とお約束してきたことがどの程度達成できたのか、どういう状況だったのかということをも自分自身も振り返り、見直ししながら、また市民の皆さんの声を聴きながら判断していくことになると思います。現時点では、まだその段階ではないと思っています。

以上です。

○ 毎日新聞

ありがとうございました。

代表質問の説明に関して質問のある方はマイクを使って質問をお願いいたします。

幹事社質問に関する質問

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。今年もよろしくお願ひします。

今年特に力を入れていきたい点、一つとは言えないかもしれませんが、教えていただければと思います。

○ 市長

まず、私としては、先ほど抱負で述べさせていただきましたけれども、いずれも大変重要な事業であると考えていますが、特に挙げるとするならば、まず一つが子ども・子育て関連施策ですが、その中でも本市においてはこの子ども・子育て支援については大変重要なテーマであると考えています。来年度からスタートする「第3期さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」に基づいて、「こどもまんなか社会の実現」、「少子化対策の推進」に重点的に取り組んでいきたいと考えています。

また、2つ目は2025年問題と言われてきましたが、いわゆる団塊の世代の皆さんが後期高齢者になる時代を迎えました。私たちは、認知症フ

レンドリーまちづくりセンターというものを昨年設置しました。ここを中心とした取組を含め、多くの高齢者の皆様に活躍し続けていただくための取組を進めていくことで、高齢者が生き生きと暮らせる環境づくりに取り組んでいきたいと思えます。

そして、3点目としては、さいたま市らしさ、さいたま市ブランドということでは、本市は大宮盆栽村開村100周年という記念すべき年となります。大宮盆栽組合、盆栽園、地域の方たち、そしてこれからを担う若手盆栽師とも協働して、次の100年を見据えた大宮盆栽村の発展に向けて取り組んでいきたいと考えています。来年度中には、次の100年につなげていくためのビジョンを盛り込んだ大宮盆栽振興プロジェクトの改定を予定しています。これらの取組によって、引き続き本市が選ばれる都市として持続的な成長、発展が図れるよう目指していきたいと考えています。

○ 東京新聞

東京新聞です。

市長選のことなんですけれども、5か月前でまだタイミングではないということなんです、間もなくそうは言っても新年度予算の編成ですとか、議会も2月から始まり年度末を迎える中で、行政の執行上も市長の進退表明というのはそろそろ必要ではないかと思うんですが、その判断はいつ頃をめどに考えていると、スケジュール的なものを教えていただければと思います。

○ 市長

スケジュールについても、市長選に出るか、市長として継続的にやっていくかを判断をすることになりますので、具体的にいつ頃かは現時点ではまだ申し上げられません。先ほども申し上げたとおり、自分自身もこれまでの、今回いただいた3年間の振り返りはもちろん、約16年間市長としてやらせていただいたことを十分に振り返りながら、そして今後のさいたま市等を見据えながら、また市民の声も聞きながら、最終的には判断をしていきたいと思っています。まだいつ頃ということは、現時点ではまだ申し上げられません。

○ 時事通信

時事通信です。今年もよろしく願いいたします。

先ほど今年の抱負の部分で、1月末に書かない窓口がスタートするという話があったと思うんですけれども、改めて市長のコメントとして狙いをおっしゃっていただきたいのと、あとはまずは西区役所からということな

んですけれども、今後の展開についても教えていただきたいです。

- 市長 まず、狙いですが、一つは手続の時間が大幅に短縮されるということがありますので、市民サービスの向上につながっていくということが一つ。それからもう一つは、それによってデジタル化が大幅に進んでいきますので、職員一人ひとりの業務の効率化にもつながっていくと考えています。これをしっかり運用していくことが第一だと思いますので、1月末から始まる、西区における書かない窓口を皮切りにして、来年度に向けては、全区で展開をしようと考えています。それに向けて着実に運用していく、その様子を私たちも見守っていくことになると思います。

- 毎日新聞 代表質問関連よろしいでしょうか。
そうしましたら、ほかの関係で質問のある方、マイクを使ってよろしくお願いたします。

その他：大宮盆栽村100周年について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
何点かちょっと質問させていただきたいんですが、まず先ほどから何度か出ています大宮盆栽村開村100周年に当たって、改めて市長が期待することと、具体的にどのような催しとかイベントを考えていらっしゃるのか、現時点でのことで構いませんので、よろしくお願いたします。
- 市長 まず、盆栽村100周年についての期待ですが、令和7年の大宮盆栽村開村100周年は、本市の誇る盆栽文化において大きな節目になる年だと考えています。盆栽園は、高齢化や後継者の不足など様々な課題を抱えています。本市としては、未来に向けた盆栽文化の継承、そして発展につなげていくために、大宮盆栽協同組合をはじめとした関係各位としっかりと連携しながら、この100周年事業を進め、この事業がさらなる振興につながる契機となることを期待しています。単に100周年のお祭りの要素だけではなくて、この100周年を契機に次の新しい盆栽文化を発展させるための一つの起爆剤になるような、新しい展開ができるような、そんなきっかけにしていければと思っています。

また、催しについてですが、現在、大宮盆栽協同組合、若手盆栽師の皆さん、あと地元のまちづくり協議会などと協働しながら、企画、検討させ

ていただいているところです。年間を通じて市民の皆様が参加し、また幅広い世代に楽しんでいただけるような、また全国に発信できる催しにしていきたいと思えます。

また、先ほども申し上げましたが、これからの大宮の盆栽の100年につながるようなものにしていきたいと思っています。具体的な内容については今予算編成中ですので、決定し次第発表させていただきます。ぜひご期待ください。

その他：新年度予算について

○ 埼玉新聞

ありがとうございます。

別の質問ですけれども、新年度の予算案の編成方針と特に重要視したい分野を教えてくださいませんか。

○ 市長

新年度予算についてですが、昨年9月に定めた令和7年度の予算編成方針では、人口135万人を有する大都市へと成長、発展を遂げている本市が次なるステージへと飛躍し、選ばれる都市であり続けられるような「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」という2つの将来都市像の実現に大きく貢献する都市基盤の整備をはじめとした投資を積極的かつ計画的に実行するなど、総合振興計画を着実に推進する取組に重点的に予算配分をすることにしています。

本市が将来にわたって持続可能な都市として成長、発展していくための予算として編成しています。特に重視したい分野ということでは、子ども・子育て施策の推進、また社会保障施策の総合的な推進、またゼロカーボンシティの実現に向けた脱炭素化の加速化、それからDXの推進など、未来に向けた投資を着実に行って、本市が将来にわたって持続可能な都市として成長、発展していくための予算を重点化することとしています。

明日1月8日から、私が直接、事業所管局から説明を受けることとなります。予算査定に当たっては、これらの視点を持ってそれぞれの事業を見てまいります。

その他：参院選の期待について

○ 埼玉新聞

また別の質問なんですけど、夏に参院選があると思いますが、市長が注目

しているポイントなどがあれば教えてください。

○ 市長

参院選の期待ですが、昨年総選挙が執行されましたが、その前後で国会運営が大分変わったなという印象を持っています。具体的には、それまでは自由民主党一強という状況で、国民に議論の中身が十分に見えない中で決定されていることも散見されていました。少数与党という状況下で各党からの議論が国民の注目の中で行われるようになったことは、大変大きな変化ではないかと思っています。

1月下旬から通常国会が始まりますが、政府原案に対して各党の考え方が国会論戦の中で明らかになってくると思いますので、国会における熟議を経て、国民生活に密着した令和7年度の取組が国会で議決されるものと期待しています。

少子高齢化、人口減少といった日本の状況下において、円安や様々な安全保障上の問題などもある中で、国際的な日本の影響力が試されていると感じています。少子高齢化、人口減少、産業育成など、また地域経済の活性化といった直近の課題をはじめとして、中長期的にも地球温暖化対策であったり、これからそのことが発展をすることによって、人類の生存そのものにも大きな影響を与えるような課題も山積しているところです。その中で幅広い政策課題をどのように取り組んでいくのか、具体的な議論をされるのが望ましいと思います。

その中で、まさに参議院選挙が行われることになるので、それぞれの政党、また候補者が、短期的な課題への対応はもちろん、中長期的な視点も含めて、しっかりと国民の前で中長期的なビジョンも含めてご議論いただきながら、そして国民の皆さんがそれをどう判断をしていくのかが問われる大変重要な選挙になると思っています。そういう意味では、これまでと違った非常に関心度の高い選挙になることを期待しています。

その他：東京デフリンピックについて

○ 埼玉新聞

もう一点だけちょっとお聞きしたいんですけど、11月に東京デフリンピックがあるかと思うんですけども、これまで市長も手話で応援メッセージ動画をされていたりとか、さいたま市のマスコットも応援隊に加入されたりとかで力を入れていると思うんですが、東京デフリンピックへの期

待を教えてください。

- 市長 デフリンピックは、聴覚に障害のあるデフアスリートたちが競い合う国際的なスポーツイベントです。デフアスリートが持つ能力や実力を広く知ってもらい大変貴重な機会であると思っています。日本でこの大会が始めて開催されますので、市民の障害者スポーツへの関心を高めるきっかけにもなると思いますし、また聴覚障害者に対する理解と認識が深まるということを期待しています。

また、競技の中で行われる聴覚障害に対する配慮、具体的には耳が聞こえない状況を光や旗などで視覚的に補う工夫、また手話を通じてコミュニケーションを目にすることで、障害特性に対する理解も深まってくるとは思いませんか、また併せて市民の意識を変えることにつながるのではないかと期待しています。

さらに、このデフリンピックの開催は本市が目指しているノーマライゼーション社会の推進にも寄与すると考えています。そのために、本市では様々なイベントの場を活用し周知活動を進めることで市民の関心を高める取組を進めています。

これからも、さいたま市としても、またさいたま市民にも、多くの市民の皆さんに呼びかけをして、このデフリンピックを応援し、大会そのものが大きく盛り上がることを期待しています。

その他：地下鉄7号線について

- 朝日新聞 朝日新聞です。本年もよろしく申し上げます。

ちょうど1年だと思わんですが、7号線のこと、まさに去年の1月、事業化要請当面見送りということになりまして、議論とか続いてこられたと思います。その後もいろんな課題がある中で、もちろんBバイCの見通しですとか、いろんな各種課題、事業費の問題とかいろいろあるかと思うんですが、改めて1年たったというのもありまして、市長の取組への考えですとか、あとできる範囲で構わないですけど、協議の状況ですとか、ちょっとお伺いできればと思います。

- 市長 昨年の今頃だと思わんですが、地下鉄7号線の事業者への事業実施要請をする予定にしていたんですが、残念ながら延期することに決定させていただきました。

きました。その後技術支援要請を埼玉高速鉄道株式会社並びに鉄道運輸機構に対して行い、合意をいただいて、現在両者の技術支援の下に様々な検討を進めさせていただいているところです。建設するに当たってのコストの削減策や運営に当たってのコストの削減策、またB/Cのベネフィットの部分についての検討、中間駅のまちづくり等についての検討などを着実に進めてきているところです。

現時点で、支援要請を受けながら検討を進めているところですが、様々な専門的な知識やノウハウをご教授をいただいている中で、少しずつ可能性が見えつつあると考えています。引き続き、まだもう少し検討していかなくてはなりませんので、それらを踏まえながら検討していきたいと考えています。

また、議会等でもしかるべきタイミングで、現時点での中間報告をさせていただきたいと考えています。

- 朝日新聞 そうすると、まだ具体的なスケジュール感みたいなものというものは、今のところ何とも言えないということですか。
- 市 長 今現時点では、まだ具体的なところは申し上げられません。

その他：保育士の給与格差について

- テレビ埼玉 テレビ埼玉です。
予算と国の関連についてお聞きします。市長が先ほど子供の施策のテーマ、重要な施策と掲げていらっしゃるというお話ありました。一つでいうと、保育士の確保とか、そういったところもかなり重要になってくるかと思えます。国の人事院が示したところでは、やはりさいたま市も含めて、東京都との格差が広がる可能性があるという勧告も出ていますが、そういったところも含めて、市としてどんなふう to そういった雇用の創出などに取り組んでいきたいとか、また国への働きかけとか、その辺の市長のお考えをお聞かせください。
- 市 長 まず、昨年後半に人事院勧告に基づく基準を改定する方向で動いて、特に保育士等々について、1年延期する発表があったので、まずはそれについては一安心しているところです。いずれにしても東京都の人件費についてはいろいろ格差が出ている状況もありますので、1つのところに集中し

ないように、本市は、9年連続で14歳以下の転入超過数が全国第1位であり、特に保育所等のニーズが高く、当然保育士の確保は大変重要なテーマであり、課題です。私たちとしてもしっかり保育士を確保し、継続的に働いていただける環境をつくっていかねばならないと考えていますので、国としてはそういったことも含めて十分に検討していただきたいと考えていますし、私たちも自治体としてやるべきことについてはしっかりやっていきたいと考えています。

○ 毎日新聞 そのほかありませんでしょうか。

どうもありがとうございます。以上をもちまして記者からの質問は終了させていただきます。

○ 進 行 それでは、以上をもちまして年頭に当たっての市長記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催ですが、1月31日金曜日午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午前11時34分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。